



資料 2
中央教育審議会大学分科会
教学マネジメント特別委員会
(第8回) R1. 8. 29

教学マネジメントを支える基盤 ～IRの機能強化に向けた提案～

山形大学 学術研究院 教授
名古屋大学 IR本部 特任教授

浅野 茂

中央教育審議会 教学マネジメント特別委員会 第8回 話題提供資料
2019年8月29日(木) @ 文部科学省 東館 3階 講堂

報告の構成

1. 本日の論点の位置付け
2. IRとは何か？
3. 日本の大学におけるIRの現状
4. 短期の対応策：役割とルールの特確化
5. 中長期の対応策：体制と環境の整備
6. まとめ

1. 本日の論点の位置づけ

教学マネジメントについて (案)

資料 3
中央教育審議会大学分科会
教学マネジメント特別委員会
(第3回) H31.2.13

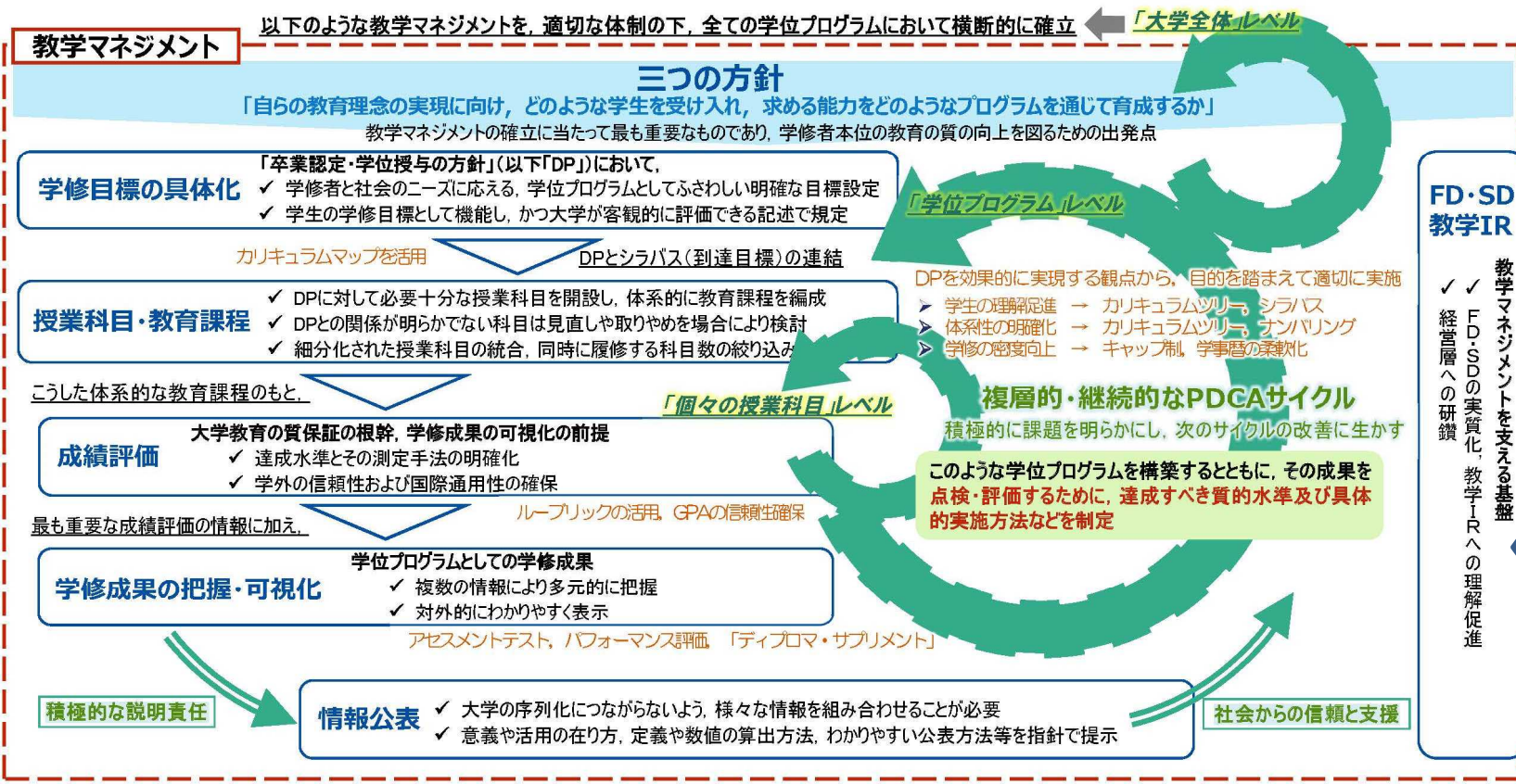
▶ 教学マネジメントとは

大学がその教育目的を達成するために行う管理運営。また、その確立に当たっては、学長のリーダーシップの下で、三つの方針(卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針)に基づく体系的で組織的な教育の展開、その成果の点検・評価を行い、教育及び学修の質の向上に向けた不断の改善に取り組むことが必要。

▶ 教学マネジメント指針とは

- 教学マネジメントの確立のため、各大学の教学面での改善・改革を促すため、その取組に際しての留意点等を網羅的にまとめたもの。(但し、特定の取組を強制するものではない。)
- 各大学の内部質保証のPDCAサイクルを推進し、大学が自ら策定した三つの方針に基づく教育取組を実効性あるものとするために必要な手法等について示すものであり、各大学においては、当該指針を参照しつつ、それぞれの責任の下、強みや特色も意識し、学修者本位の教育の質向上につながる具体的な方針を策定することが重要。

出典)2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申) 用語解説



2. IRとは？（1）

- 「IRとは何か」について、**一概には答えられない**古典的な問題である。（Terenzini, 1999）
 - IRは**多義的な概念**であり、米国でも必ずしも一貫した厳密な定義が存在するわけではない。部署の構成や業務内容は大学の属性によって異なるうえ、データ収集から戦略策定まで広範にわたる活動（**現在も発展中**）である（小林・山田(編), 2016）。
- 最も広く受け入れられているのは、Fincher（1978）及びSaupe（1990）の定義。（Howard et.al, 2012）
 - Institutional Research as “decision support”
 - 意思決定を支援するうえで必要な情報を提供するために
行う調査・研究

2. IRとは？（2）

- 2008年 「学士課程教育の構築に向けて」
 - 審議まとめ：インスティテューショナル・リサーチャー（学生を含む大学の諸活動に関する調査データを収集・分析し、経営を支援する職員
 - 答申：**大学の諸活動に関する調査データを収集・分析し、経営を支援する職員**
- 2012年 「新たな未来・・・質的転換に向けて～」
 - 答申：入学者選抜や教学に関わるデータ分析、テスト理論や学修評価等の知見を有する専門スタッフの養成や確保・活用のために、拠点形成や大学間の連携の在り方等に関する調査研究を行う
- 2014年 「大学のガバナンス改革の推進について」
 - 審議まとめ：（前略）・・・インスティテューショナル・リサーチャー（IRer）・・・（後略）等の人材を， 大学本部が配置することが考えられる
 - 注釈22： IRは「一般に，教育，研究，財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し，**大学の意思決定を支援するための調査研究**を指す」と定義される

3. 日本の大学におけるIRの現状（1）

大学における教育内容等の改革状況について（平成28年度）

IR（インスティトゥーショナル・リサーチ）：大学の組織や教育研究等に関する情報を収集・分析することで、**学内の意思決定や改善活動の支援**や、外部に対する説明責任を果たす活動といわれており、アメリカでは・・・（後略）

全学的なIR部署の設置状況	平成24年度	平成28年度
専門の担当部署を設けている	81大学（10.6%）	279大学（36.8%）
委員会方式の組織を設けている	81大学（10.6%）	196大学（25.9%）

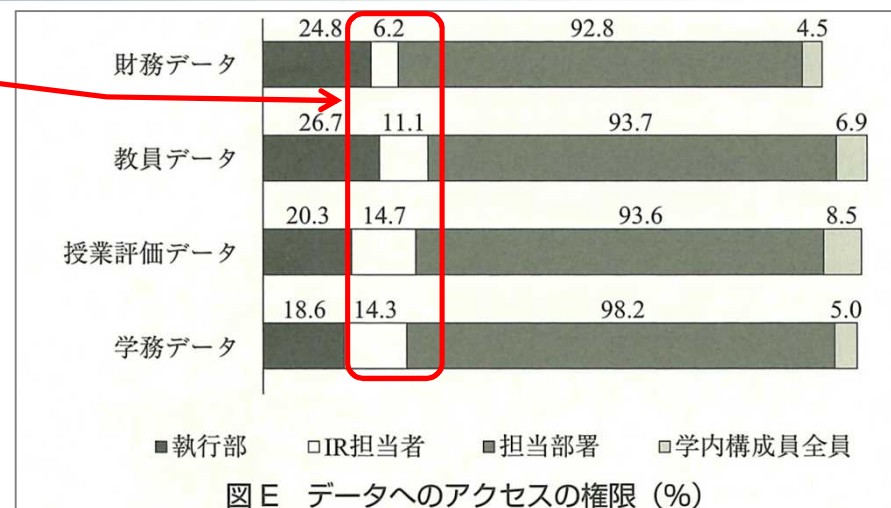
全学的なIR部署の担当業務（Top5）	平成28年度
①学生の学修成果の評価のためのデータ収集等	180大学（23.7%）
②自己点検評価に必要なデータ収集等	168大学（22.2%）
③学生の学修時間の把握のためのデータ収集等	158大学（20.8%）
④認証評価の報告書作成、必要なデータ収集等	146大学（19.3%）
⑤学生、大学教職員に関するデータ収集等	139大学（18.3%）

※N=758大学（回答率：98%）

3. 日本の大学におけるIRの現状（2）

IR担当者が全学データにアクセスできる権限は6.2～14.3%と低い。

- ・ 設置形態に関わらず、依然、データの収集・管理が課題。
- ・ 共通課題として、データ所管部署が不明、システム管理部署の支援が得られない、といった自由記述が見受けられた。



出所： 小林・山田（編），2016；pp.191

選択肢	国立		公立		私立	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
① 調査・分析の設計	7	22.6%	3	21.4%	42	28.0%
② データの収集・管理（分析前処理を含む）	10	32.3%	7	50.0%	57	38.0%
③ 分析	5	16.1%	3	21.4%	18	12.0%
④ 報告	4	12.9%	1	7.1%	16	10.7%
⑤ その他	5	16.1%	0	0.0%	17	11.3%
合計	31	100%	14	100%	150	100%

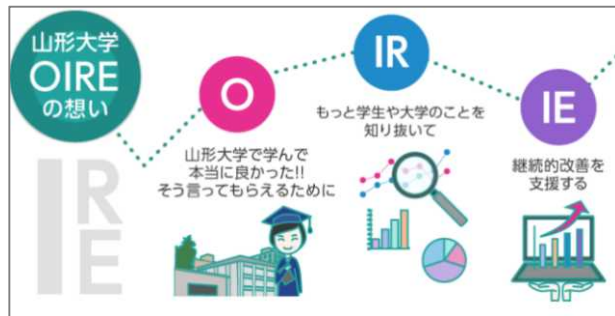
図1 「IR活動の流れの中で最も困っているもの」の回答割合

出所： 橋本・白石（2019）；pp.18

4. 短期の対応策：役割とルールの明確化（1）

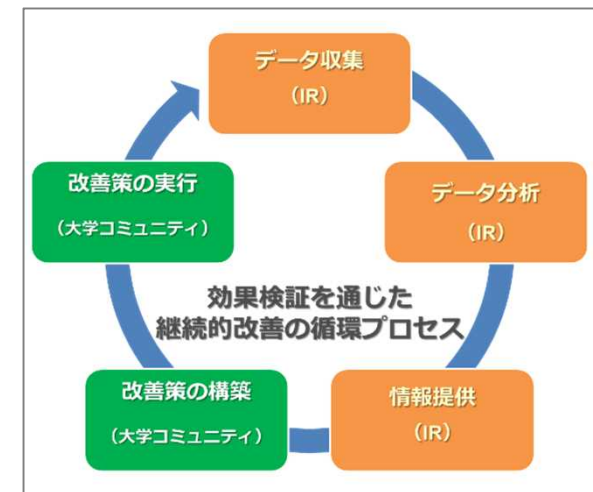
まず、IR担当部署（または組織）は「何をするとところなのか」を学内で十分に議論し、「**活動の拠り所**」となる使命、役割等を明確にする！

【実践事例】



山形大学次世代形成・評価開発機構IR部門（Office of Institutional Research & Effectiveness, OIRE）は、データの収集および分析を行い、大学コミュニティへの情報提供を通じて、山形大学の継続的改善と、データに基づく意思決定を支援します。

- **IR（Institutional Research）とは**
客観的なデータ分析に基づいた大学における諸活動の効果検証及び、情報提供等を通じた大学の意思決定又は業務の継続的改善を支援すること
- **IE（Institutional Effectiveness）とは**
IR機能を活用して効果検証を行い、大学として継続的改善の循環プロセスを実行すること



4. 短期の対応策：役割とルールの明確化（2）

次に、学内の各種データをどのような責任と役割の下で収集し、それらをどのように管理し、「**大学として**」活用していくかのルールを策定する！

【実践事例】

学内に散在する各種データをIR業務で有効活用するための規程

1. 国立大学法人山形大学IR情報データベースに係る情報保護管理規程（H18.4月制定、H29.3月までに計12回改正）

IRシステムに集約するデータを保有または管理している部署を明確化し、収集するデータの範囲や収集方法等を明記。

URL: https://www.yamagata-u.ac.jp/reiki/reiki_int/reiki_honbun/w679RG00000123.html

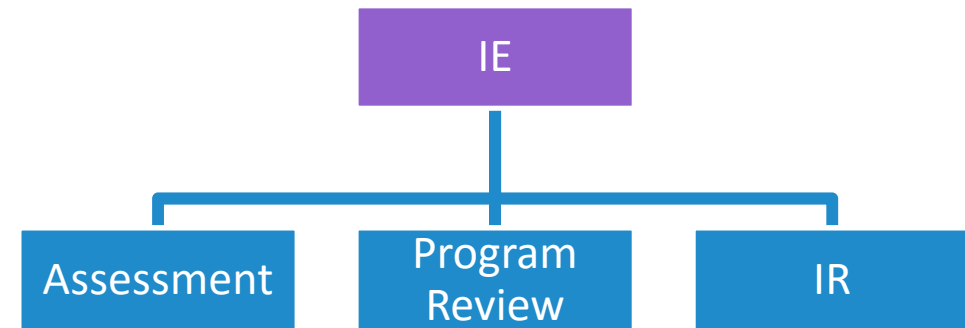
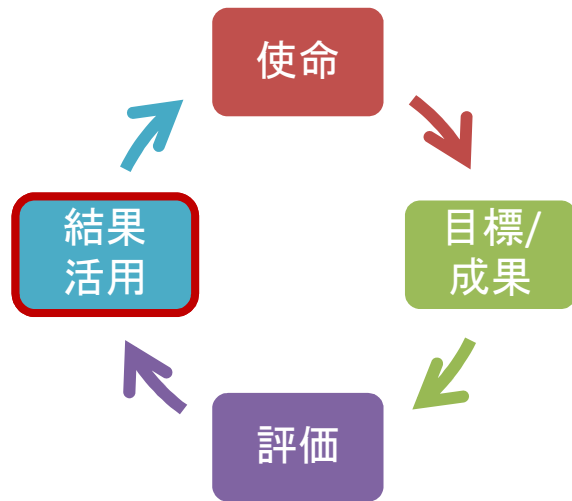
2. 国立大学法人山形大学IRシステムマネジメント規程（H26.9月制定、H29.11月までに計4回改正）

IRシステムの運用に係る学長、理事、部局長等の責任を明確化し、情報提供及び活用に向けて協力することを明記。

URL: https://www.yamagata-u.ac.jp/reiki/reiki_int/reiki_honbun/w679RG00000122.html

5. 中長期の対応策：体制と環境の整備（1）

米国からの示唆：教学マネジメントを支える基盤



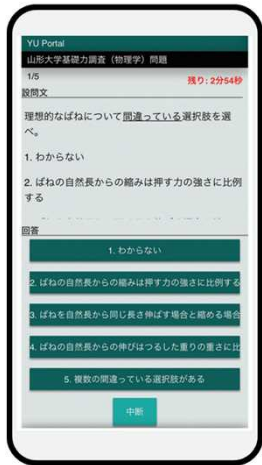
- ✓ 教学マネジメント≒IE。IEの統一的な定義はないものの、機関の使命に沿って各種成果を評価し、その結果に基づく改善策の効果を継続的に検証する循環サイクル（Closing the Loop）として捉えられている。

- ✓ 学生を対象とした学修成果の測定や満足度の調査等の「Assessment」、学部・学科で提供する教育プログラムを対象とした教育効果を把握するためのエビデンスに基づく「Program Review」と、それを実施または補完するデータ分析等を行う「IR」の包含関係にある。

5. 中長期の対応策：体制と環境の整備（2）

参考：山形大学におけるAssessmentの実践事例

スマホアプリ
YU Portalを活用



学問基盤力、実践地域基盤力、国際基盤力を直接測定するための「基盤力テスト」を独自開発し、全学的に実施。

到達度をポートフォリオ化して学生にフィードバック

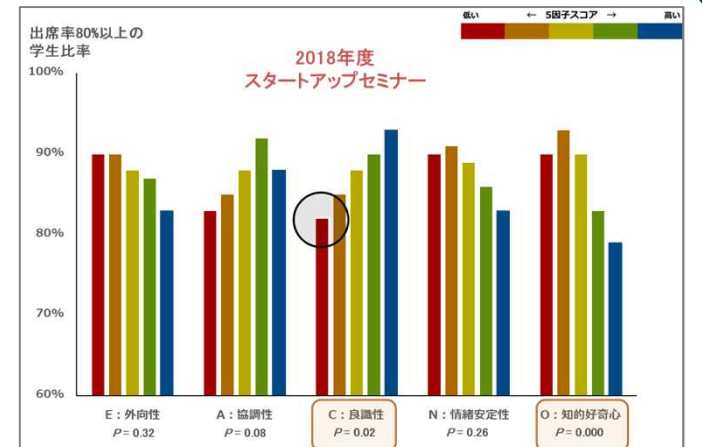
到達度の客観的な把握、出欠データ等を用いたIR分析に活用

カリキュラム	能力値 θ 1年	能力値 θ 2年	能力値 θ 差	p	d
全	-0.10	-0.14	-0.05	0.12	-0.05
A	0.02	0.03	0.01	0.94	0.01
B	0.48	0.06	-0.42	0.00	-0.57
C	-0.96	-0.94	0.02	0.85	0.02
D	-0.07	-0.13	-0.06	0.57	-0.07
E	-0.25	-0.06	0.19	0.02	0.24
F	0.08	0.11	0.03	0.70	0.04
G	-0.01	0.14	0.15	0.04	0.19
H	-0.07	-0.27	-0.20	0.49	-0.23
I	0.03	-0.10	-0.13	0.48	-0.17
J	-0.48	-0.75	-0.27	0.00	-0.32

✓ 16年度1年生 12月時点の θ 平均 = 0
 θ 標準偏差 = 1

✓ $p < 0.05$ で有意

効果量 d	増	減
小	□	□
中	□	□
大	□	□



カリキュラムに
フィードバック

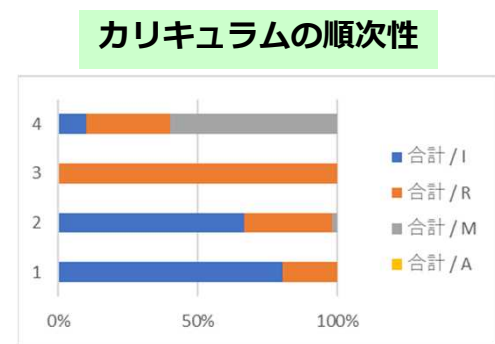
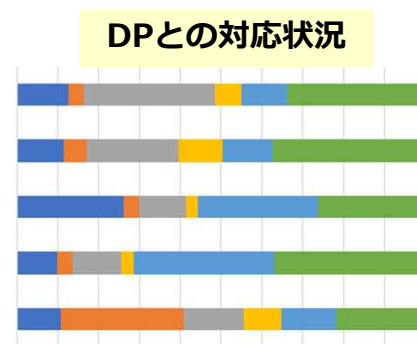
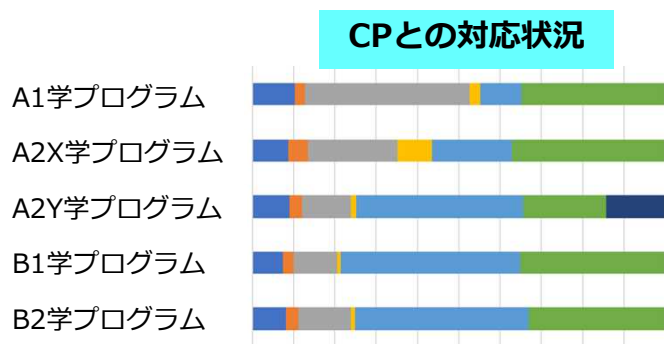
5. 中長期の対応策：体制と環境の整備（3）

参考：山形大学におけるProgram Reviewの実践事例

教育課程の編成・実施方針（CP）				カリキュラム				学位授与の方針（DP）			
CP1	CP2	...	CPn	科目名	担当教員	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	...	DPn
	○		○	サイエンス・スキル	山形太郎 山形花子	化学、生物、物理学及び生化学の基礎知識を涵養する。	(1)○○に関する基礎知識を把握できている。 (2)△△に関する理論を理解できる。 (3)◇◇的なものの見方を身に付けている。	(1)△ I (2)◎ R (3)○ M	(1)△ A		

◎ DP達成のために特に重要な事項
○ DP達成のために重要な事項
△ DP達成のために望ましい事項

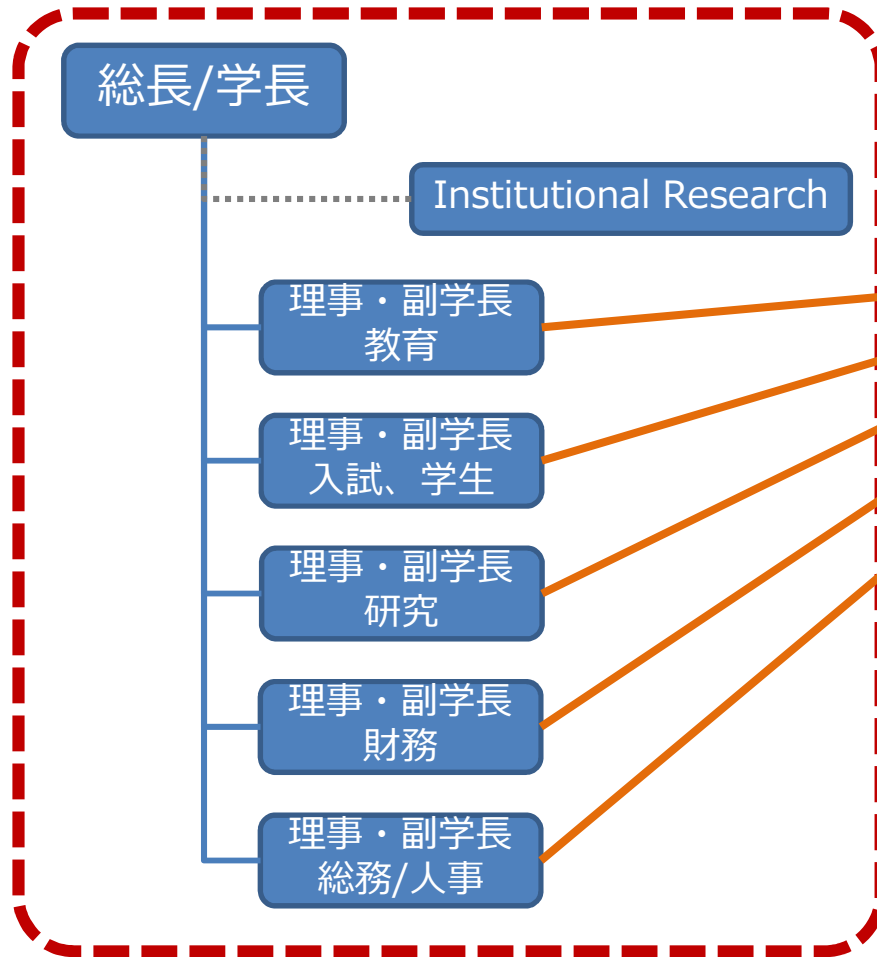
I: Introduced
R: Reinforced
M: Mastered
A: Assessed



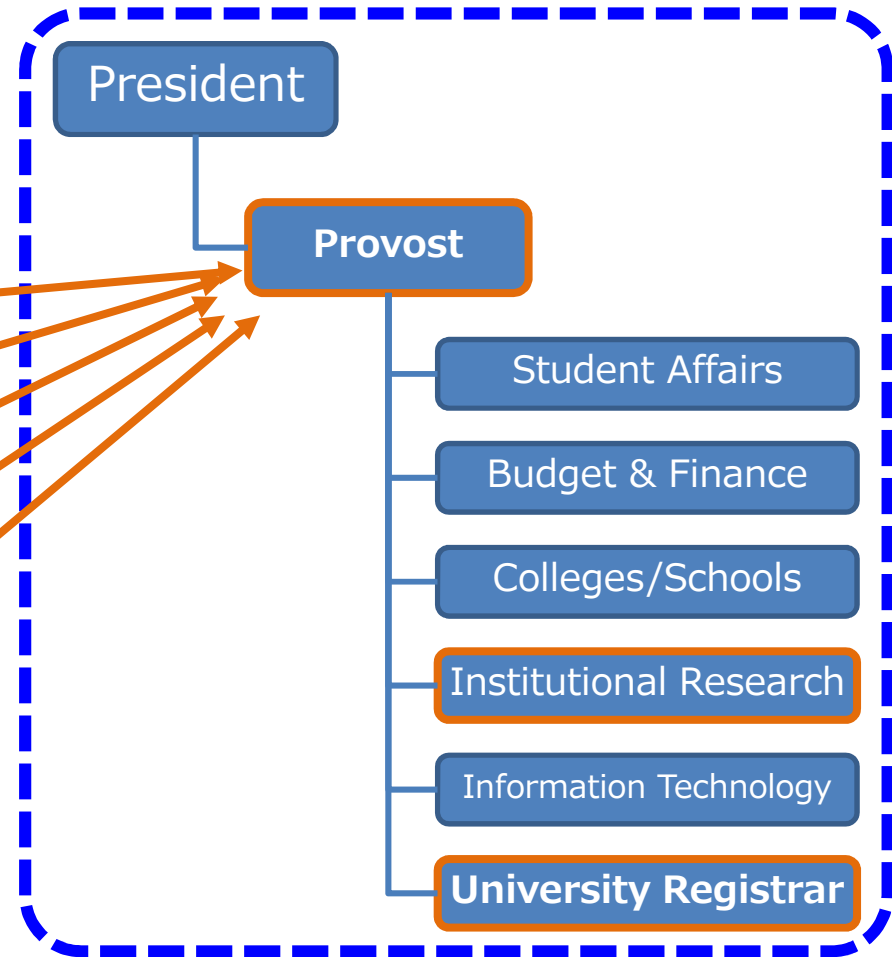
5. 中長期の対応策：体制と環境の整備（4）

IRを機能させるガバナンスの模索

日本の大学

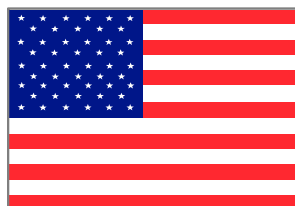
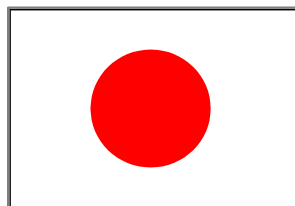


米国の大学



5. 中長期の対応策：体制と環境の整備（5）

IRを支える情報環境の整備



機関レベル

独自開発の統合型DB(九大、神大、山大、明治大など)

データ可視化ソリューション
IR-Plus

学生データ(成績、履修状況、ACTスコア、FAローンなど)

財務データ

人事データ

ISRS

データリクエスト ↑ ↓ 結果

IR

IRはほとんど全てのデータにアクセスできます。

任意の取組

IR Information System

OIRE BI Reports

Access to Success
 Achieving the Dream
 Aspen Prize for Com.Col Exc.
 Completion by Design
 Complete College America
 Consortium for Std. Ret. Data Exch.
 The Equity Scorecard
 N. Col. Athletic Assoc. Ed. And RD
 N. Com. Col. Benchmark Project
 Predictive Analytics Rep. Framework
 Student Achievement Measure
 SREB Data Exchange
 Transparency by Design
 Vol. Frame. Of Accountability
 Vol. Institutional Metrics Project
 Vol. System of Acc. Col. Portraits
 WICHE Multi. Long. Data Exchange

国レベル

大学ポートレート
Japanese College and University Portraits

政府統計の総合窓口

Integrated Postsecondary Education Data System

National Student Loan Data System

6. まとめ

- ✓ 教学マネジメントを支える基盤として、IRを定着させるには、各大学の実情に応じて使命や目的等を定め、IR担当部署（または組織）にどのような役割を持たせるのかを明確にすることが必要。
- ✓ IR担当部署（または組織）の業務を推進するために必要な各種の学内情報をどのように収集、管理し、それらを「大学として」どのように活用していくのかをルール（規定）化することも必要。
- ✓ 教学マネジメントの各種業務を推進できる大学のガバナンスの在り方等についての継続的に検討し、その過程でIR担当部署（または組織）の関わり方も併せて位置付けていくことが重要。
- ✓ 大学、コンソーシアム等の任意団体、国レベルの各階層における情報環境の整備を検討していくことも重要。

参考文献・資料

- Howard, R.D; McLaughlin G.W.; Knight W.E. and Associates (2012) , The Handbook of Institutional Research, Association for Institutional Research, Jossey-Bass Inc.
- 浅野茂 (2015) , 「IRの4つの顔」から見える日本の大学のIR像」, 大学評価コンソーシアム情報誌「大学評価とIR」第4号, pp.43-50.
- 浅野茂 (2016) , 「データベースの構築とIRの課題」, 高等教育研究第19集, pp.49-66.
- 浅野茂 (2017) , 「米国におけるIR/IEの最新動向と日本への示唆」, 京都大学高等教育研究第23号, pp.97-108.
- 鳶田敏行・藤原宏司・小湊卓夫 (2016) , 「日米における中規模大学のIR活動に関する事例研究」, 名古屋高等教育研究第16号, pp.287-304.
- 小林雅之・山田礼子 (編) , 『大学のIR 意思決定支援のための情報収集と分析』慶應義塾大学出版会.
- 東京大学 (2014) , 平成24-25年度文部科学省大学改革推進委託事業『大学におけるIR (インスティテューショナル・リサーチ) の現状と在り方に関する調査研究報告書』.
- 橋本智也;白石哲也 (2019) , 「大学におけるIRの実態に関するアンケートの調査報告－自由記述に見られた困難・活動内容－」, 大学評価コンソーシアム情報誌「大学評価とIR」第10号, pp.16-10.
- 藤原宏司 (2015) , 「政策立案・計画策定における米国 IR 室の役割」, 大学評価コンソーシアム情報誌「大学評価とIR」第2号, pp.17-25.
- 藤原宏司 (2015) , 「IR 実務担当者からみたInstitutional Effectiveness～米国大学が社会から求められていること～」, 大学評価コンソーシアム情報誌「大学評価とIR」第3号, pp.3-10.
- 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室 (2019) , 「平成28年度の大学における教育内容等の改革状況について (概要)」 (URL 最終閲覧日 : 2019年8月10日) .
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afieldfile/2019/05/28/1417336_001.pdf